

市議会 建設/経済委員会

財政難だからこそ 本当に必要な事業は何かの見直しを

3月議会は、15日建設委員会、16日経済委員会が開かれ、委員会に付託された平成16年度予算案をはじめとする議案の審議がおこなわれました。

大垣駅周辺鉄道高架 可能性調査委託に400万円

30万人の中核市の将来構想として、駅南北の一体化した発展を妨げているため、JRの鉄道高架の可能性について調査委託費400万円が計上されました。しかし、高架事業となると莫大な予算が必要となり、委員の中からも「高架にすると大垣駅の操車場が問題となり、移転には莫大な費用がかかる。無駄ではないか」「高架の話で加賀野の踏切があのままの状態で放置されては困る」等の意見がでました。

昭和50年頃にも高架の検討がなされ、区間が揖斐川から杭瀬川までで費用が莫大となり断念し、かわりに国道258号線の陸橋が造られたという経緯があります。笹田議員は「その当時の調査結果をまず明らかにして、それを踏まえ検討すべきではないか」と資料提供を求めました。

水道事業第5次基本計画 徳山ダム利水予定なし

水道事業の第4次変更認可が平成15年度で完了し、現在第5次基本計画（平成16～24年度）を県に申請中であることが明らかになりました。この5次計画の概要では計画給水人口が「158,100人」から「141,100人」に減らさ、計画取水量を下方修正しています。ところが、徳山ダム利水分との関わりで、小川市長は「大垣市の地下水量にも限界があり、将来的には水源地確保が必要」（3月9日 読売新聞）と発言しています。

笹田議員はこの問題を取り上げ「市長の発言は第5次計画の下方修正と矛盾するのではないかと質しました。これに対して「大垣市の水道事業は今のところ地下水で足りている」「（市長の発言は地下水汚染や地盤沈下による水の汲み上げ規制があると水不足になるのでは）」ということでした。それならまず漏水対策を行い、水道の有収率（大垣市は71.6% 全国平均指標91.2%）を高めるなど水の無駄遣いを減らし、地下水保全のための緑化対策を急ぐことが必要ではないでしょうか。

大谷川の洗堰 徳山ダム完成関係なく平成19年度に嵩上げ

岐阜県の徳山ダムの利水量変更案にかかわり、小川市長が「利水より治水を重視された結果と受け取っている。悲願である大谷川・洗堰の嵩上げを実現するためにも、ダムの早期完成を望むことには変わりない」（3月9日 読売新聞）と発言しています。これについて笹田議員は「市長の発言は“徳山ダムの完成”が条件とも受け取れる。洗堰の嵩上げは、第1期計画の完了後と理解していたがいかがか」と質問しました。「平成19年度徳山ダム完成を目途に、第1期計画を完成させ嵩上げする」という答弁に対し、「今年は徳山ダムの追加予算はついていない。平成19年度完成には間に合わないかもしれない、そのときはどうなるか」と質しました。これに対して「平成19年度第1期計画で嵩上げする」という答弁でした。



競輪事業からの繰入金3億円計上

今年は「全日本選抜競輪」が開催されるため、競輪事業からの一般会計繰入は3億円が計上されています。不況のなか一攫千金を夢見る庶民の財布をあてにした競輪事業は、自治体が賭博を推奨することで成り立っており見直しが必要です。

「パート・臨時労働者の労働条件改善に関する陳情」事実上の否決

今深刻な雇用状態の中で、パート・臨時労働者の労働条件の改善が求められているのに、陳情を否決に等しい継続審議にしてみました。

スポットOgaki、日本共産党に対するご意見・ご質問等はこちらへ

TEL 81-1383 <http://www.sasada-toyoko.jp/> e-mail: sanbal@sasada-toyoko.jp